

## 音素文字としてのカナ記号を利用した 英語発音表記システムの開発

English phonetic transcription by Japanese KANA as phonemic system

湯舟 英一 (東洋大学)

井上 高志 (有)ビッグアップルカンパニー)

### はじめに

フォニックス指導やネイティブ音声の Listen & Repeat による英語音声の習得は、調音フィードバック機構の適応柔軟性が衰える思春期以降では、効果の期待できる学生の割合は徐々に減少する。よって成人以降の学習者には、聞いた音声を繰り返す際に、正しい発音のための視覚的補助があると便利であると考えられる。

しかし、従来の IPA による発音記号による体系的な指導は中高ではさして行われておらず、大学生の多くが IPA が読めない状況である。このような状況で、日本人に馴染みのあるカタカナを用いた発音表記の取り組みも行われているが (e.g. 島岡, 1994; 島岡・島岡, 2013)、個々の単語やフレーズに対してカタカナで近似した表記が与えられるに留まり、IPA に代わる「表記システム」ではなく、またその表記法においても発音実行可能性と音像再現性において問題点が多い。

### 目的

英語と日本語の文字と音構造の違いに着目させ、日本語の音を子音と母音に分けた音素文字としてのカナ記号を利用した英語発音表記システム「Nipponglisch」を提案する。

### 方法

この発音表記の開発は、様々な音素や音節構造を持つ英単語の音響解析、伝統的および最新の英語音声学の知見、World Englishes における The Lingua Franca Core (Jenkins, 2000) 等で提唱される世界に通じるための英語発音の優先事項、など多角的なデータと理論を下敷きに構築した後、カナ表記の視認性、発音実行可能性や音像再現性に関する妥当性検証も過去1年にわたり繰り返し行ってきた。我々はさらに、ネイティブスピーカーの英単語約2,000個の音声データの「抑揚」を音程解析ソフトを使って測定した結果、英単語内のピッチの上下は例外なく一貫した法則に従って発音されていることを発見し、その結果を上記のカナ表記システムと統合した。

### Nipponglisch 表記の例 (抜粋)

#### 1. カタカナをアルファベットの音と文字の構造と同じにするために音素化する

Nipponglisch では「子音の k = 文幅を縮小したカタカナの【カ】」を「偏」、「母音の a = 文字幅を縮小したカタカナの【ア】」を「創り」として配置し、母音と子音を明確に分けた音素文字構造を実現した。

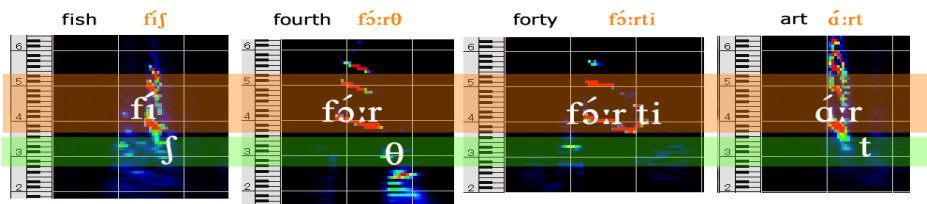
## 2. 英語のリズム感を直感的に識別できる音節の視覚効果



## 3. 英語の coda 母音の長短と音質の違いを視覚的に表現 (cf. Jenkins, 2000)



## 4. 英語の発音の高低アクセントを視覚的に表現



## 5. チャンクや連続発音による音程や発音の変化を明確に表現



## 今後の課題

表記の一部自動生成化や CALL 教材への親和性などを検討している。発音向上の客観的評価研究へ。

## 参考文献

- 島岡丘 (1994) 『中間言語の音声学—英語の「近似カナ表記システム」の確立と活用』. 小学館プロダクション.
- 島岡良衣・島岡丘 (2013) 『日本語で覚えるネイティブの英語発音』. ダイヤモンド社.
- Jenkins, J. (2000) *The Phonology of English as an International Language*. Oxford: Oxford University Press.